ておや だより

栃木県の特別支援教育を
つなぎます　ひろげます　ささえます

第 21 号　2024 年 2 月

栃木県特別支援教育手をつなぐ親の会　発行
〒320-0066 宇都宮市駒生 1―1―6　栃木県教育会館
TEL/FAX: 028-627-3603　E：teoya@pony.ocn.ne.jp

県大会「足利大会」報告

歴史と文化のまち足利市において、１０月２４日（火）、多くのご来賓の皆様にご臨席いただき、参加者３７７名の中で開催されました。

✿✿　式　典　✿✿

表彰式では、会長表彰状が授与されました。

○ 友愛作業所　所長　荒井　久　様（芳賀地区）
○ 石川　泰子　様（下都賀地区）
○ ロス クワトロ ペスカドーレス 様（足利地区）

また、大会宣言文および大会決議文朗読、決議も行われ、次回開催地の塩谷へ引き継がれました。

さらに、同時開催の児童生徒作品展や、足利中央特別支援学校ダンス部によるアトラクションには、多くの称賛の声が上がっていました。

✿✿　研修会　✿✿

社会福祉法人イースターヴィレッジの菊地廣光様による講演では、巧みな話術でひきつけながら、子育てについてお話をいただきました。特に、「失敗を恐れない、許し合い認め合える環境の大切さ」については、たくさんの反響がありました。

ここでは紙面の都合上、牧子先生による講演の概要を取り上げさせていただきます。

１　講師　とちぎきょうだい会　牧子　晃那　様
２　演題　きょうだい支援について
３　研修概要

◇きょうだいとは、「病気や障がいのある人の兄弟姉妹のこと。年齢・性別の区別なく表現するため、平仮名で「きょうだい」と表現する。しかし、きょうだいは、一人一人がみな違う。

◇きょうだい会とは、きょうだい支援をしている団体の一つ。本県の支援団体は、ＳＨＡＭＳ「しぇいむず」（宇都宮市拠点）、Ｎｏｔ　ａｌｏｎｅ（那須塩原市拠点）、ばななば（栃木市拠点）などがある。

◇きょうだい支援の必要性

病気や障がいのある兄弟姉妹がいると、きょうだいは「一人でやっておいて」「偉いね」など言われることがあり、それを重く受け止め、プレッシャーに感じることもある。子どもの頃からの考え方の癖が、大人になっても続き、生きにくさを感じているきょうだいもいる。だから、きょうだい同士の分かち合いの場も必要。

◇きょうだいが抱きやすい気持ち（NPO 法人しぶたね「シブリングサポーター研修ワークショップ」テキスト参考）

① 不安・恐怖　何が起きているのかわからない。一番不安な時、きょうだいに寄り添う大人は少ない。　➡ 年齢に合った情報提供や、いつでも何度でも聞ける空気が必要。

② 困惑・恥ずかしさ　自分の家族と他の家族との違いを感じる。じろじろ見られる、と感じる。恥ずかしいと大好きが一緒にやってきたときに戸惑うこともある。　➡ どんな気持ちを抱いてもＯＫと伝えたい。

③ 罪悪感・自責感　「寂しい」「しんどい」と思う事がいけないと感じる。自分だけ楽しむ、就職する、結婚することへの罪悪感を感じる。　➡ 楽しかったという積み重ね、楽しんでもいいんだと思えるようになるといい。

④ 怒り・嫉妬　病気や障がいのある兄弟ばかり甘やかされるように見える。不公平感。その感情が蓄積し爆発するかも。➡マイナス感情との付き合い方、ストレスの発散方法を見つけてほしい。話してくれて「ありがとう」を伝えたい。

⑤ 寂しさ・孤立感　自分に目が向かない気がする。差別的な発言に傷つくこともある。　➡ 同じ立場や似た気持ちの仲間との出会いがあると良い。親ときょうだいだけの時間がつくれると良いな。愛情、気持ちは言葉で伝えてほしい。

⑥ 自己肯定感の低下　誰からも見てもらえない子。いらない存在。愛される価値がないと諦めるきょうだいもいる。大変さを察して良い子に

なるきょうだい、手のかかる子と思われるきょうだいもいる。 ➡ 肯定的な言葉のシャワーをかけてほしい。

⑦ プレッシャー・将来への不安　親に心配をかけたくない。見てほしくて頑張りすぎる。障がいがない罪悪感で目標が高いこともある。将来は面倒を見なければと感じている割合は、７２%。 ➡ 失敗しても、がんばれなくてもあなたの価値は変わらない、将来面倒を見る見ないの二択ではないことを伝えてほしい。先輩きょうだいの話が聞けたり、大人が人に頼る姿を見せたりすることも大切と思う。

～ 活動紹介 ～

各地区活動の活性化に向け、今回は「下都賀地区（小山市）」の活動を紹介します。

「小山市特別支援教育手をつなぐ親の会連絡協議会の活動について」
同　連絡協議会　会長　宮島三和子　様より

小山市には、市内小中義務教育学校の特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者を会員とした「小山市特別支援教育手をつなぐ親の会連絡協議会」という親の会があります。

本会は、有志会員と輪番制による教職員によって、総会・講演会・進路研究会・情報交換会・会報発行などを行っています。

講演会は、日々の生活の一助となるような講演を実施しています。進路研究会は、支援学級からの進学実績のある学校をお招きし、学校説明をしていただいています。情報交換会は、元会員である先輩保護者をお招きしてお話を聞いたり、日々の困り感などを自由に話し合ったりしています。

会員と特別支援に関わる教職員が一緒に参加し、家庭と学校が同じ方向を向いて支援できる体制を目指しているところが本会の大きな特徴です。毎年多くの会員や教職員に参加をいただいているため、今後も時代の流れを意識しながら、支援の輪がつながっていく会を目指します。

２０１６リオデジャネイロパラリンピック
ボート競技日本代表選手　駒﨑　茂　様より

～ 本会へのメッセージ ～

障害者スポーツの魅力とは、障害の有無に関わらずスポーツを通じて同じ目標に向かって切磋琢磨できることだと感じます。障害というと出来ないことに目を向けがちですが、スポーツは自分の限界に挑戦ができます。そして、色々な可能性が広がります。様々な障害を持つ人と出会うことで自分の障害と向き合う機会となったり、お互いに支え合うことができるのです。スポーツを楽しみながら自分の可能性に気づき、多くの方々との良い出会いがありますことを願っています。

～ 要望活動 ～

（写真は玉田課長様と鈴木会長）

特別支援教育の充実を願い、県障害福祉課長様、県教委特別支援教育課長様を訪問、県大会決議に沿った要望書を提出しました。提出先は、県知事様、県教育長様等を含む７か所となっています。

～ 特別委員会報告 ～

事業における学校負担軽減の声、募金減少による財政面の課題等に伴い、特別委員会を設置し、５名の委員の皆様に「本会の在り方」を検討していただきました。また県内小中学校から２割程度を抽出して、保護者や学校関係者にアンケートを実施し３５７名から回答をいただきました。感謝申し上げます。その中から紹介します。まず「本会の主な事業で有意義だと思うもの」は、次のとおりです。

第１位　地区親の会や作品展への助成
第２位　募金活動
第３位　保護者手記「てつなぎ」発行
第４位　要望活動

記述式の回答では、多様なご意見をいただきました。「保護者同志をつなぐ場をつくる」「保護者への情報提供」「地区への助成継続」「募金での学校負担軽減」「デジタル化やオンライン化」などのご意見です。実現の可否を検証・検討し、理事会や総会を経て事業に反映して参りますので、今後ともご支援・ご協力のほど、お願いいたします。

～ 愛の募金・賛助会費の結果 ～

皆様にご協力をいただきました募金・賛助会費は、2／9現在、総額 2,869,757 円（前年比 93%）の見込みです。様々なお立場からのご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。また校務多忙な中、取りまとめていただいた先生方、ありがとうございました。